

JECTEC ニュース

創刊号

VOL.1, NO.1 JUL.,1991



JECTEC

社団法人 電線総合技術センター

創刊号発刊に当たって

会長 川上 哲郎

PRESIDENT
TETSURO KAWAKAMI



JECTECニュース創刊号に寄せて一言ご挨拶申し上げます。

近年、環境保護、国際化の進展、社会システムの高度化等に対し産業界としても真剣に取り組むことが求められています。

こうした諸問題は夫々問題が大きいだけに、個別企業ベースの対応では困難であり、共同研究、異業種交流を図り、研究開発を推進していくことが必要であります。

当センターはこのような社会的要請にこたえて、通商産業省等のご援助の下に、今年2月に設立許可され、活動が始まった所です。建設予定の静岡県浜松テクノポリスに土地を取得し、センター施設を建設すべく建屋・諸設備の計画・検討を来春の完成を目指して進めています。

建設に当たっては、趣旨にご賛同いただいた電線メーカーが会員となり、設立推進の母体になりましたが、今後、幅広い視野から、より適確な研究開発を進めるために、電線、ケーブルのユーザー業界・材料業界等の方々にも賛助会員として参加をお願いし、ご意見・ご協力を賜り、異業種交流の効果を生かして、共に問題の解決に邁進する所存であります。

ここにJECTECニュースを発刊するに当たり、会員並びに関係者の方々には本誌を通じて、当センターの活動にご理解をいただき、また研究活動等に貴重なご批判、ご意見を賜ることによって、更に当センターの内容の充実に努めたく、何卒ご協力下さいますようお願いいたします。

末尾ながら、去る5月8日開催した当センターの設立披露パーティーには、通商産業省をはじめ諸官庁、学会等関係各位のご出席を賜わり、暖かいご支援と励ましのお言葉を頂きましたことを厚く御礼申し上げますと共に、今後とも変らぬご指導、ご支援を賜わるようお願い致します。

目次

創刊号発刊にあたって	2
JECTECの概要	3
トピックス	4
設立パーティ	
活動報告	8
設立総会	
理事会(第1回)	
運営委員会(第1回)	
技術委員会(第1回)	
正会員一覧表	10
賛助会員募集について	11
浜松テクノポリスに用地を取得	12

JECTECの概要

1. 目的

本会は、電線・ケーブルに関する調査・研究及び開発、試験及び検査の実施、海外研修生の受け入れ、技術分野等における人材育成等の事業を行うことにより、我が国の電線・ケーブルの技術及び品質の向上に努めるとともに、都市機能の高度化や資源・環境問題の進展といった新しい技術的課題に的確に対処し、もって我が国産業社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 事業

本会は、前項の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1)電線・ケーブルに関する調査・研究及び開発
- (2)電線・ケーブルに関する試験及び検査の実施
- (3)電線・ケーブルに関する海外研究生の受け入れ
- (4)電線・ケーブルに関する内外関係機関等との交流及び協力
- (5)電線・ケーブルに関する技術分野等における人材育成
- (6)電線・ケーブルに関するデータベースの活用推進
- (7)電線・ケーブルに関する情報の収集及び提供
- (8)前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

3. 会員

本会の会員は、正会員及び賛助会員とする。

(1) (正会員)

正会員は、電線・ケーブル製造業及びその関連事業を営む法人並びにこれらの者を構成員とする団体とする。

(2) (賛助会員)

賛助会員は、本会の目的に賛同し、その事業に協力しようとする者とする。

4. センターの組織・運営体制

4月1日付でセンター常勤者が決まり、5月8日の理事会に於て、間山隆氏を専務理事に選出し、運営委員会及び技術委員会が設置され、活動を開始した。

5. 委員会等の役割

(1)運営委員会

理事・監事会社の代表で構成され、理事会を助けてセンター運営に係る事項を詳細に審議する機関である。

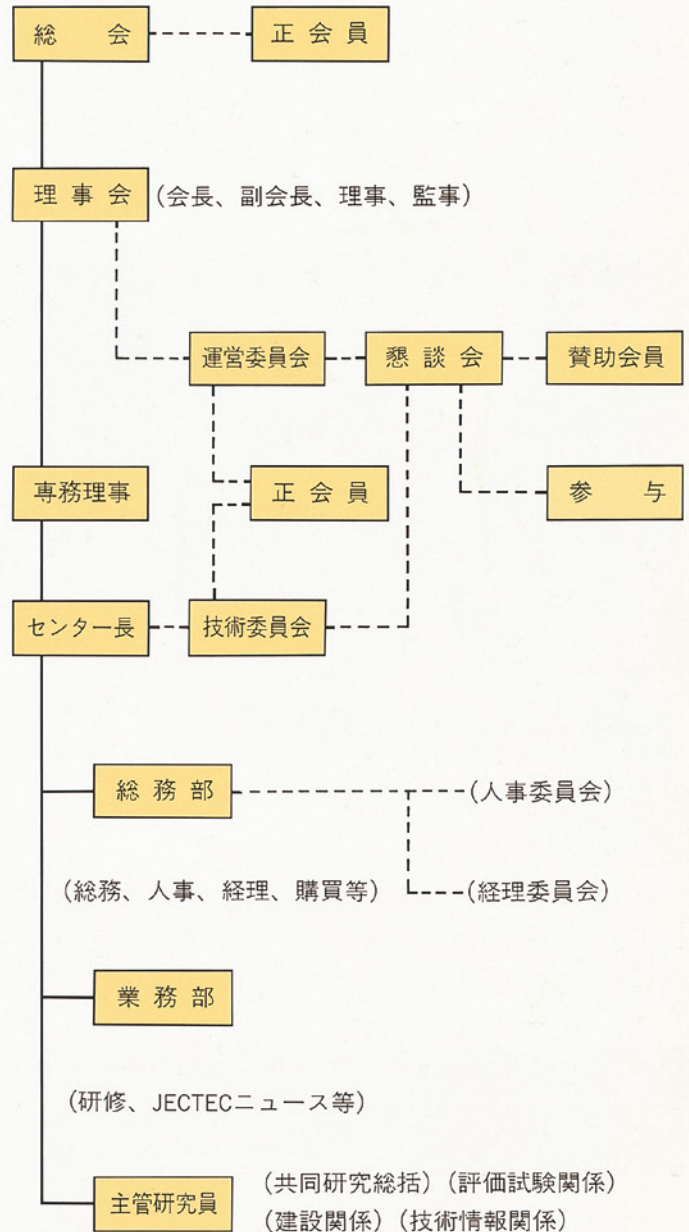
(2)技術委員会

理事・監事会社の代表で構成され、技術上の業務に関する重要事項を審議し、センターの事業を有効且つ適切に推進するための機関である。

(3)懇談会

研究開発の全てのステップについて、関連業界との情報交換、意見交換、自由な討論の場として活用する。

組織図



設立披露パーティ盛大に開催

去る5月8日、東京大手町の経団連会館ゴールドルームにて、関係官公庁、各業界の関係者を招き、参加者約350名で盛大に開催されました。初めに主催者を代表して、川上哲郎会長（住友電気工業社長）よりご挨拶があり、次いで来賓を代表して、内藤正久通商産業省基礎産業局長、栗原勝浜松市長（代読 根木孔二浜松市商工部長）、三井恒夫東京電力常務より夫々ご祝辞が述べられました。その後、センターの設立母体となった電線工業会の加賀谷誠一会長（藤倉電線社長）の音頭で乾杯、歓談に入りました。

参加者については、通商産業省、東京消防庁、静岡県及び浜松市の関係者、電気学会、各種委員会の学会の関係者、電力会社、電信電話会社の関係者、電気事業連合会、日本電設工業協会、石油化学工業協会、など各業界の関係者、全国電線工業組合、東日本電線工業協同組合等、電線業界を代表する団体の関係者、さらに会員59社と日本電線工業会の関係者の方々であり、中締めには友松建吾副会長（古河電気工業社長）よりご挨拶があり、歓談は終始なごやかに進みました。



会長挨拶

川上 哲郎



本日は電線総合技術センターの設立披露パーティに当り、大変お忙しいご予約のなか、ご臨席賜りまして、誠に有難く厚く御礼申し上げる次第であります。

特に官界からは内藤基礎産業局長を初めとして、通商産業省、或は各省の首脳の方々、学会から著名な先生方にご出席を頂きまして、私どもの大きな慶びでございます。

私共電線産業は大変長い歴史を持っておりまして、日本の近代化、工業化に、微力ながら役立って来た訳ですが、高度工業時代から高度情報社会へと移行し、ご案内の通り最近の技術革新は一段とスピードを加速しております。一方においては、日本の存在が世界的にも大きくなり、地球規模の環境問題、或は資源のリサイクル問題、更には省資源問題と色々抱えておりまして、私共もこの色々な問題に積極的に取組み、また、解決して行かなければならぬ、と考えている次第であります。

そうは申しながらも、一企業の力は限りがございますので、私共と致しましては、業界を挙げてこの新しい技術革新に邁進したい所存でございます。そのためには官界、学会、そして日本の社会の幅広い層の方々のご協力、ご支援が必要でございます。

その意味で、私共の念願でございましたこの電線総合技術センターが、ここに発足出来ます事は大きな喜びでございますし、また、産業界と致しましても、数少ない民間の自主的な研究機関の発足ではないかと言うことで、喜び、かつ、素直に申し上げて誇りとする所でございます。

また、当センターは通商産業省のご支援を得まして、社団法人として発足、研究所を静岡県浜松市都田地区に作ることに相成りました。環境も大変宜しく、地理的にもご案内の通り、日本の丁度中心にあたり、また、頭脳テクノポリスの中心であると言うことで、周りに進出される県の工業技術センター、静岡大学等のご協力を頂ける位置にあり、環境と致しましても実に恵まれた立地が出来た事も、また私共の喜びが倍加するところでございます。

しかしながら、生れたばかりの未だ赤ん坊でございますし、良く皆様方のご期待に沿い得るかと言うことは、私共業界人としての、これからの研鑽が必要でございます。

取上げるべきは山積と言うべきでありまして、最初は残念ながら小さい発足に相成りますが、これを産業界各位、或は、先ほど申し上げました官界、学会のご支援を得て、大きなものにし、開かれた研究所にしたい、或は国際的にも存在感のある研究所に致したい、と言うのが私共の念願でございます。特に東南アジア各国では、この様な研究所が出来ると言うこと自体に、既に大きな反響を呼んでおります様な状況でございます。

その様な意味での技術革新の国際的貢献、或は情報基地としての機能を持ちたいと、大変欲張った願望ではございますが、皆様方のご支援を得て、是非赤ん坊から成人へと成長させて行きたい、と念ずる次第でございます。

最後になりましたけれども、今まで色々ご尽力賜りました各官庁、更に静岡県の方々、及び浜松市の市長はじめ地元の方々、更に関係各位の方々に私共の厚い感謝の気持ちを捧げまして、本披露パーティの開催の言葉に代えさせていただきます。

来賓祝辞

通商産業省基礎産業局長

内藤 正久 殿



本日は、電線総合技術センターの設立を心からお慶び申し上げます。振り返って見ますと、丁度2年前の89年の3月に、業界の方々を中心に通産省も一緒になりまして、ミネルバ計画を作りまして、今後の非鉄金属関連技術開発の発掘を行ったことが、本センター設立の契機だと理解しております。その後、産構審の答申を経て、その実現に向けて2年の間、ここまで持ってこられた関係者の方々のご尽力に心から感謝申し上げますとともに、高い尊敬の念を抱くものであります。

先程会長からお話ございましたように、電線業界は非常に歴史の古い業界であります。同時にエネルギー、情報の伝達というまさに社会の神経・血管の役割を担う重要な産業でございます。

今後、新たな技術開発という点で、さらに展開・飛躍をして行こうと言うことで、言い古された表現ですが、情報化産業の社会の尖兵として、今後とも力強い発展が続けられることを期待しております。

大企業、中小企業合わせて非常に多くの企業が、研究開発を共同のセンターという場で進めるという新たな協調の動きが出てきたというのは、長い電線業界の歴史の中で画期的な事ではないかと思われまます。こうした前向きの協調に踏切られた関係各位に心から敬意を表しております。

センターの業務内容は先程会長からお話ございましたが、共同研究では地球環境対応であるとか、リサイクルに関連した社会の流れに応じた研究をいろいろ考えていくとのこと。また、安全性評価の問題は、業界の共通基盤の問題でございますし、皆様方で力を合わせて取組んで行くということで、楽しみに致しております。

また先程お話しが有りましたような国際交流の進展という状況の中で、技術の伝播、あるいは海外からの研究者の招聘等の事業を広範囲におやりになるとのことですが、発展途上国の技能者の参加を求めるスキンスリップの一環という役割もあるのではないかと考えております。皆様より国際的にも開かれた研究所にしたいという力強いお話があったことを非常に心強く感じております。

微力ではございますが、私ども是非お手伝いをさせていただきますようにと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

先程お話しがございましたように、静岡県、あるいは浜松市に非常に意欲的な好意あふれるご協力を頂いております。まさに地元でのご協力というものがかかる研究所が育っていく基盤だと思います。地元の方々にも今後とも暖かい目で育てて頂きますよう、我々の方からもお願い申し上げます。今日、慶びの日の言葉に代えさせていただきます。今後、益々のご発展をお祈り致しまして、簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

浜松市長

栗原 勝 殿

(浜松市商工部長 根本孔二殿代読)



本日は浜松市、栗原市長が参りまして、親しくお祝いのことばを述べるべきところでございましたけれど、今月の5月1日、浜松市、面積251平方キロと、その中にある可美村、面積41平方キロとが合併致しまして、五十数年来の長年の懸案でございました合併が成立致しました。その関係で、今日はどうしても、こちらには参ることが出来ないということで、市長から皆様方にくれぐれも宜しくお伝えして頂きたいということで、メッセージを預かって参りましたので、私、誠に僭越ではございますけれど代読させていただきます。

本日、ここに社団法人電線総合技術センターの設立披露

パーティが、関係の皆様多数のご出席のもとに、かくも盛大に、開催されますことを先づもって、お慶び申し上げます。

ご案内の様に、社会における神経・血管の役割を担う電線・ケーブルは高度情報化社会生活の進展に伴い、その重要性が益々増大している状況にあります。このたび、通商産業省ご指導のもと、電線産業界の総力を結集して、21世紀を見据えた国際的な試験・研究機関を設立されることは、誠に時宜を得たことと心より敬意を表する次第であります。

また、試験・研究機関の拠点を浜松市テクノポリスの中核にあります浜松市都田地区にご決定頂き、来春のオープンに向けて、建設計画を順調に進められておられますことを、浜松市と致しまして、大変喜ばしく存する次第であります。

ご計画では、電線・ケーブルの技術・品質の研究開発、地球的資源・環境問題等を、国際的視野に立って、事業展開されると伺っておりますが、これは国際的な産業・文化都市圏造りを目指しております浜松地域の社会・産業の発展に大いに貢献して頂けるものとご期待申上げる次第でございます。この試験・研究活動の拠点の整備が今後順調に進められ、大いなる成果を挙げて頂きますことを浜松市民ともども念願申し上げますとともに、社団法人電線総合技術センターの今後ますますのご発展と、本日ご出席の皆様方のご健勝と、ご多幸を心からお祈り申し上げます。簡単ではございますが、お祝いのことばと致します。

東京電力株式会社常務取締役

三井 恒夫 殿



本日は電線総合技術センター設立、誠にめでたうございます。

考えて見ますと、私どもの電力会社は電線さんのお世話

になりまして、商売をさせて頂いております。電気を発生する発電機から、そして延々100キロメートル、200キロメートル、の送電線で電気を運び、変電所で変圧器を通して電圧を下げ、そして電線を通してお客様のもとに参ります。

お客様にありましては、工場の屋内配線、あるいはビルの中の屋内配線、こういったもの全て電線さんにお世話になっておりまして、実際にお使いになる動力、あるいは情報機器、それら全て電線を使って出来上がっている訳でございます。私どもこういったものを、電力系統であるとか、あるいは電力システムと申しておりますが、何のことはない、電線を継ぎ合わせて出来たシステムでございます。

最近、私ども、100万ボルトの送電線を建設致しております。電線メーカーさんにいろいろなアイデアで、この100万ボルト達成のために、いろいろな技術を開発して頂きました。山岳地を通りますものですから、雪のつかない電線とか、あるいはコロナ雑音が起きない電線とか、あるいは風音が起こらない電線とか、いろいろなアイデアで電線を開発して頂いておりますし、都心部に参りますと、200キロメートル、300キロメートル、これは全て地中送電線でございます。

地中ケーブルも27万5千ボルトとか、50万ボルトとか、そう言う電圧のCVケーブルを開発して頂いております。これらは世界に冠たる技術だと思います。しかもその信頼性の高い、品質の良いケーブルですので、こういったものを使って出来上がっております電力システムというのは、世界の中でも大変信頼度の高い、お客様への停電の少ないシステムでございます。海外の電気事業の方々とお話ししていると、停電時間の桁が違いますものですから、大変驚異に感じている、それ程の違いがある程高い信頼性のある供給が出来ている訳でございます。

このような電力システムというのを運用する場合にも、発電所とか、変電所とかいうのは各地に散在しているものですから、これを情報のネットワークで結びまして、そして、これをコントロールしていく、そこでもやはり電線さんにお世話になっている訳でございます。そういう情報ネットワークに通じたコントロールで、このシステムが運用されている、こんな情況でございます。最近、電力に用いる電線と、情報を伝達する電線とを融合致しまして、送電線の上にあります架空地線の中に、光ファイバーケーブルを埋込みましたOPGWというのを開発して頂きました。これをまた送電線に乗せて、そのネットワークを形成して来た、とこんな具合に、電力エネルギーと情報との融合ということも行われている訳でございます。

このように、電気のお客様が増えれば増えるだけ、そして情報のお客様が増えれば増えるだけ、電線メーカーさん、ますます繁栄なさると、こういう仕組みになっている訳であります。

このような時期に電線メーカーさんこそって、通商産業省ご指導のもとに、このような技術センターをお作りになったということは、誠に時宜を得たものだ大変喜んでおります。

その中で、地球環境の問題とか、リサイクルとか、そのようなことを研究なさるといことで、私どももまた、その成果を大いに期待している訳でございます。

最後になりましたけれども、電線メーカーさんのそれぞれのご発展と、そして電線総合技術センターのご活躍を祈念致しましてご挨拶と致します。

社団法人日本電線工業会会長
加賀谷 誠一殿



ご承知のとおり、日本の電線産業は、今や世界第2位まで成長致しました。第3位はドイツであります、ドイツの2倍であります。この電線業界が各社それぞれ資金及び人を出し、この電線総合技術センターを作るということは、刮目すべきことであります。

量だけでなく、質的にも大変成長したと思っております。

それでは、ご指名でございますので、乾杯の音頭を取らせて頂きます。

電線総合技術センターの順調な発展を祈念致しまして乾杯をお願い致します。ご唱和をお願いします。

乾杯！

副会長挨拶

友松建吾



ご歓談中、大変恐縮でございますが、ひとこと御礼のご挨拶を申し上げます。本日は、当センターの設立披露に際しまして、大変ご多忙中のところ、ご臨席賜りまして誠に有難うございました。

またご来賓から、大変有難い、温かいおことばを頂戴致しまして、厚く御礼申し上げます。

私どもは、業界の力を結集致しまして、当センターにおきまして、電線の技術につきまして、世界水準を越えるものを目指して、努力して行きたいと考えております。こうした意味におきまして、皆様方の、より一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます、本日のお礼のことばとさせていただきます。

本日は誠に有難うございました。

活動報告

設立総会

日時 平成3年1月31日

場所 日本電線工業会 61号室

出席者 設立発起人

加賀谷 誠一（藤倉電線株式会社 社長）

川上 哲郎（住友電気工業株式会社 社長）

友松 建吾（古河電気工業株式会社 社長）

橋本 博治（日立電線株式会社 社長）

松井 善之助（昭和電線電纜株式会社 社長）

重成 隼男（三菱電線工業株式会社 社長）

河野 聡（タツタ電線株式会社 社長）

矢崎 裕彦（矢崎電線株式会社 社長）

波多野 浩一（第一電工株式会社 社長）

村田 茂（住友電装株式会社 社長）

宮田 治（西日本電線株式会社 社長）

小暮 継生（東京特殊電線株式会社 社長）

松下 久夫（沖電線株式会社 社長）

中村 新太郎（川崎電線株式会社 会長）

計14名（委任状出席者を含む）

議事の概要

1. 発起人代表挨拶、経過説明

設立発起人を代表して、加賀谷誠一氏から社団法人電線総合技術センターの設立準備の経過を説明、監督官庁の指導を受けて設立の準備も整い、ここに設立総会を開催する運びとなり、この結果、関係書類を整備して通商産業大臣

宛て、許可のための申請をすることになる旨の経過を報告し、出席者はこれを承認した。

2. 議長選出

川上哲郎氏を本設立総会の議長に選出した。

3. 議事録署名人選出

加賀谷誠一氏及び中村新太郎氏を議事録署名人に選出した。

4. 議事

(1) 社団法人電線総合技術センターの設立

設立趣意書（案）の趣旨により、設立することを決定した。

(2) 定款制定

定款（案）について諮ったところ、異議なく可決決定した。

(3) 事業計画書及び収支予算書

設立当初の事業年度及び翌年度の事業計画書（案）及び収支予算書（案）について諮ったところ、異議なく許可決定した。

(4) 入会金及び会費規則制定

入会金及び会費規則（案）について諮ったところ、異議なく可決決定した。

(5) 役員を選任

設立当初の理事及び監事並びに会長、副会長について、可決決定した。

(6) 設立者及び設立代表者の選任並びに設立代表者の権限

設立者として前項の各理事及び監事を、設立代表者として川上哲郎氏を選任した。設立に必要な権限を設立代表者に一任することを決定した。

(7) 電線総合技術センターの事務所設立の件

事務所を下記に設置することを決定した。

東京都中央区築地1丁目12番22号

5. 設立趣意書

電線・ケーブルは、社会の「神経・血管」の役割を担い、電力・通信・情報の存在するところに必ず使用される重要な基礎資材であり、近年の高度情報化社会の進展や省力化に伴う設備機械化の進展、あるいは高速輸送網の拡充などの社会生活の高度化に伴い平成元年度の出荷額は1兆4,800億円に達しており、その重要性はますます増大し安全性の確保や資源・環境問題等に対する的確な対応が求められております。

近年、超高層ビルの発達や大深度地下利用などに見られるような都市機能の高度化に伴い、地震・火災等の災害時における非難誘導手段の確保、二次災害の防止などの要請に対する電線・ケーブルの役割も重要性を増しているほか、産業廃棄物や資源リサイクル問題といった地球規模での環境・資源問題に対する技術的課題に対する対応が求められるなど、個別企業を越えて対処すべき課題が増大しております。

このため、平成元年6月に行われた産業構造審議会非鉄金属部会電線小委員会の報告書の中でも「電線・ケーブルの評価技術等のテーマについて協同研究・異業種交流を図りつつ、順次研究開発を推進して行くことが望まれる」と指摘されており、併せて「国際協調にも十分配慮した研究開発の推進」が求められております。

しかし、これらの課題に個別企業で対処することは困難であり、ここに協同で実規模による実証実験室などの設備を備えた試験研究機関を設立し、電線・ケーブルに関する調査・研究及び開発、試験及び検査の実施、海外研修生の受入れ、技術分野等における人材育成等の事業を行うことにより、我が国の電線・ケーブルの技術及び品質の向上に努めるとともに、都市機能の高度化や資源・環境問題の進展といった新しい技術的課題に的確に対処し、もって我が国産業社会の発展に寄与することを目的として『社団法人電線総合技術センター』を設立しようとするものであります。

平成3年1月31日

設立者一同

理事会（第1回）

日時 1991年5月8日(木)

場所 経団連会館・1105会議室

理事・監事

理事(会長) 川上 哲郎(住友電気工業株式会社 社長)

理事(副会長) 友松 建吾(古河電気工業株式会社 社長)

理事(副会長) 河野 聡(タツタ電線株式会社 社長)

理事 加賀谷誠一(藤倉電線株式会社 社長)

理事 橋本 博治(日立電線株式会社 社長)

理事 松井善之助(昭和電線電纜株式会社 社長)

理事 重成 隼男(三菱電線工業株式会社 社長)

理事 矢崎 裕彦(矢崎電線株式会社 社長)

理事 波多野浩一(第一電工株式会社 社長)

理事 村田 茂(住友電装株式会社 社長)

理事 宮田 治(西日本電線株式会社 社長)

理事 中村新太郎(川崎電線株式会社 会長)

監事 小暮 継生(東京特殊電線株式会社 社長)

監事 松下 久夫(沖電線株式会社 社長)

審議事項

1. 議事録署名人選出の件
2. 第1～3号議案 間山隆氏の専務理事選任の件
3. 第4号議案 センターの組織ならびに運営体制の件
4. 第5号議案 新会員入会の件
5. 第6号議案 建物の発注の件

報告事項

- (1) 法人設立等の経緯について
- (2) 土地購入について
- (3) 静岡県への補助金申請について
- (4) 共同研究について
- (5) 事業計画および予算について

運営委員会（第1回）

日時 1991年4月16日(月)

場所 日本電線工業会 62号会議室

出席者 (順不同 敬称略)

(1) 委員

小島 (住友電気工業) 石川 (古河電気工業)

田中 (藤倉電線) 依田 (日立電線)

草野 (昭和電線電纜) 関根 (三菱電線工業)

石原 (タツタ電線) 宮口 (矢崎電線)

大森 (第一電工) 伊藤 (住友電装)

鈴木 (西日本電線) 佐藤 (東京特殊電線)

泉 (沖電線) 中村 (川崎電線)

(2) 参加者

伊木、中村（日本電線工業会）
間山、三井、高柳、島田、中山、沼尻、森、
花井（センター）

技術委員会（第1回）

日時 1991年5月28日(火)

場所 日本電線工業会 62号室

出席者（順不同 敬称略）

委員長（センター）三井、（古河）黒柳、（住友）野田、
（藤倉）新免、（日立）石原、（昭和）山田、
（三菱）奥河、（タツタ）田中、（矢崎）横山、
（第一電工）山菅、（住友電装）近藤、（西日本）阿南、
（東特）小窪、（沖）池田、（京三）勝呂

参加（センター）間山、（工業会）江本、（住友）谷藤
事務局 中山、沼尻、島田、花井、高柳、森

議事の概要

1. 委員長の選出
住友電気工業小島専務を委員長に選出した。
2. 法人設立等の経過報告
3. センター組織ならびに運営体制
4. 平成3年度の事業計画および予算
5. 活動報告
土地、建物、設備および補助金申請、共同研究について報告、審議された。
6. 設立パーティの件
7. 理事会審議事項の件
8. 今後の日程

審議事項

1. 共同研究・試験設備・試験設備利用調査
2. センターにおける自主研究について
3. 海外研修事業について
4. 基本計画について
5. 技術委員会分科会について

正会員一覧表

平成3年6月30日現在

株式会社愛国電線工業所	住友電気工業株式会社	花島電線株式会社
礎電線株式会社	住友電装株式会社	阪神電線株式会社
泉尾電気工業株式会社	第一電工株式会社	日立電線株式会社
オーナンバ株式会社	株式会社ダイジ	平河ヒューテック株式会社
岡野電線株式会社	大電株式会社	藤倉電線株式会社
沖電線株式会社	太陽電線株式会社	富士電線株式会社
華陽電線株式会社	立井電線株式会社	富士電線工業株式会社
カワイ電線株式会社	タツタ電線株式会社	古河電気工業株式会社
川崎電線株式会社	中国電線工業株式会社	別所電線株式会社
河村電線工業株式会社	千代田電線株式会社	丸豊電線株式会社
木島通信電線株式会社	通信興業株式会社	三菱電線工業株式会社
北日本電線株式会社	津田電線株式会社	株式会社三ツ星
京三電線株式会社	株式会社帝国電線製造所	弥栄電線株式会社
協和電線株式会社	東京電線工業株式会社	矢崎電線株式会社
倉茂電工株式会社	東京特殊電線株式会社	行田電線株式会社
斎藤コード製造株式会社	東日電線株式会社	米沢電線株式会社
三映電子工業株式会社	トヨクニ電線株式会社	理研電線株式会社
三和電線工業株式会社	西浦電線株式会社	坂東電線株式会社
四国電線株式会社	西日本電線株式会社	協和電線工業株式会社
品川電線株式会社	日本製線株式会社	
昭和電線電纜株式会社	日本大洋海底電線株式会社	

賛助会員募集について

当センターは電線メーカーが中心となって設立、会員会社61社(6月30日現在)の参加を得て、事業をスタート致しました。

今後、開かれた研究所として、よりの確に研究開発を推進するためにも電線・ケーブルのユーザー業界や材料業界等幅広い層の方々に設立の趣旨に御賛同いただき、賛助会員としての参加を歓迎しております。

当面の課題と致しましては、地球環境保護の立場から使用

後の処理を考えた材料リサイクルの研究、都市機能高度化のための安全性・高信頼性を確保できる電線システムの研究等を考えています。これから益々重要視されて来るこれらの諸問題について、共に情報交換の場を持ちながら、解決・改善を図って行く所存ですので、宜しくご指導、ご支援の程お願い申し上げます。

●各種事業への参加

センターの行う各種事業に参加できます。

事業	サービスの内容
共同・受託研究事業	各種電線・ケーブルの素材評価試験受託 大型設備を用いた燃焼試験受託 会員各社からの受託研究・共同研究
研修事業	電線・ケーブルの最新の技術動向及び電線・ケーブルのQC・検査活動などに対する研修
情報事業	国内外の技術情報に関するデータ検索サービス 国内外規格、技術情報の収集領布等

●会員間の情報交流

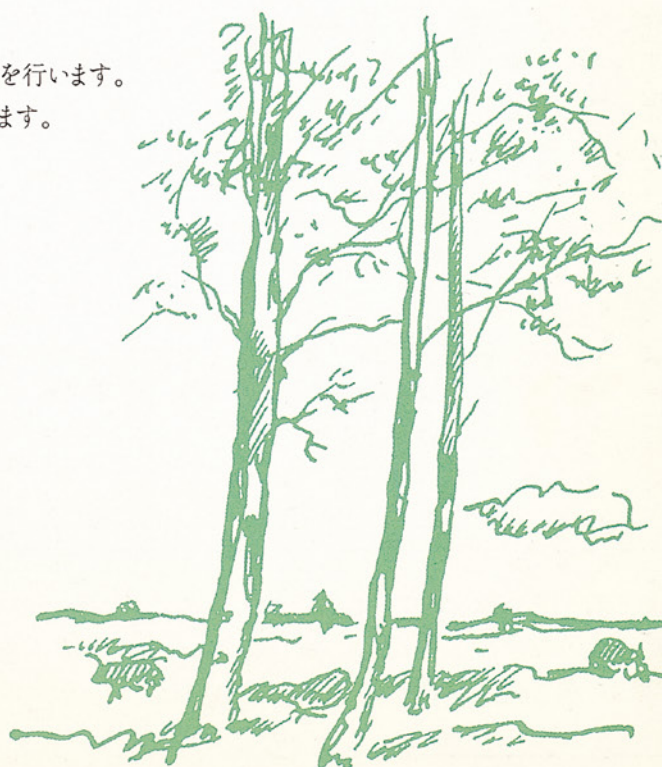
懇談会を開催し(年1回)、会員相互の親睦の中で、意見交換を行います。
尚、技術年報(年1回)、ニュースレター(年3回)を配付いたします。

●会費

年会費 1口 30万円(1口以上)
但し、上記金額には消費税を含みません。

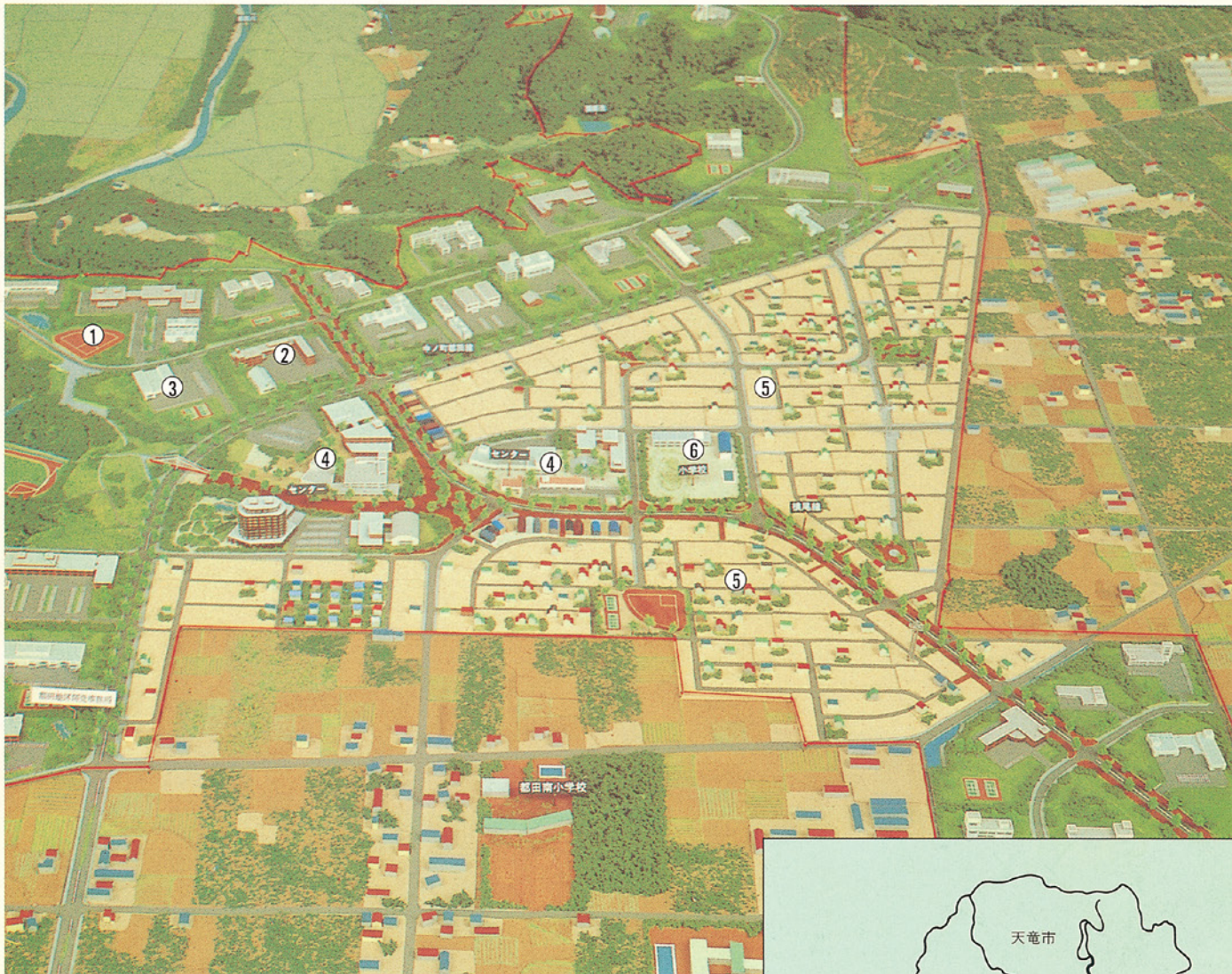
●連絡先

〒106 東京都中央区築地1-12-22 コンワビル 6F
(株)電線総合技術センター 総務部長 高柳 義男
TEL 03-3248-0661 FAX 03-3248-0664



●浜松テクノポリスに用地を取得

浜松市の北約15Kmの所にセンターの建設用地(面積13,000m²)を購入取得しました。この一帯は古戦場で有名な三方原の北部にあたり、研究所の団地として浜松市が計画・推進している「浜松テクノポリス都田地区」の一画です。



浜松テクノポリス都田地区 完成予想の模型

- | | |
|-------------|--------------|
| ①JECTEC | ④シティーセンターゾーン |
| ②浜松工業技術センター | ⑤住宅ゾーン |
| ③静岡大学の研究所 | ⑥小学校 |



JR浜松駅より車で約20分

住所：浜松市都田仮換地18街区4-2画地

JECTECニュース(創刊号) VOL. 1, NO.1, JUL., 1991

発行日：1991年7月25日 発行：社団法人 電線総合技術センター

〒104 東京都中央区築地1丁目12番22号(コンワビル6F) TEL 03-3248-0661 FAX 03-3248-0664